

## 令和 1 年度 事務事業評価シート

## 事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	集会所改修等事業	会計名称	一般会計				担当課	総務課			
予算科目	2 款 1 項 14 目	事業番号	513				所属長名	河合浩二			
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業（事業の概要・結果のみ）				担当責任者名			坪田孝宣			
法令根拠等	伊予市集会所整備事業実施要綱、伊予市集会所改修等事業費補助金交付要綱				【開始】 実施期間		令和／平成 18 年度				
総合計画での位置付け	参画協働推進都市の創造 市民が主役のまちづくり						【終了】	令和 年度(予定) ■ 設定なし			
総合計画における本事業の役割	地域住民の話合いの場や活動の場であるコミュニティ施設を整備することで、地域課題の共有化に加え、住民意識の醸成を図り、協働のまちづくりの推進に努めるものとする。										
事業の対象	地縁団体又は住民自治組織を単位として設置され、自治組織等が維持管理する集会施設			事業の目的	参画と協働の郷づくりを推進するため、地域の問題解決、地域における公共的活動及び新たな地域づくり活動等の拠点として活用する集会施設について、新築、改築又は増築並びに改修を行うことを目的とする。						
事業の内容(整備内容)	(1) 集会施設の新築・改築又は増築（市負担額は対象事業費の6割） (2) 集会所の改修又はし修繕（備品は除く）に対する補助（事業費の2分の1以内）を行う。			昨年度の課題に対する具体的な改善策							

## 事業活動の内容・成果 (D0)

事業費及び財源内訳(千円)							事業活動の実績(活動指標)						
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績	
直接事業費	1,291	0	1,500	0	0	1,500	財源内訳	集会所の新增築の数	件	0	0	0	
国庫支出金	0	0	0	0	0	0							
県支出金	0	0	0	0	0	0		集会所の改修等の数	件	1	1	1	
地方債	0	0	0	0	0	0							
その他	0	0	0	0	0	0		集会所の改修等の数	件	1	1	1	
一般財源	1,291	0	1,500	0	0	1,500							
職員の人工(にんく)数	0.10	0.00				0.10							
1人工当たりの人物費単価	7,982	7,992				7,992							
※ 直接事業費+人物費	2,089	0				2,299							
主な実施主体	地縁団体又は住民自治組織を単位として設置され自治組織等が維持管理する集会施設	実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)	補助金(予算額****千円)										
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)							2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	5年間の合計	
成果指標	指標	指標を設定しない。				単位	→	区分年度	前年度	1年度	2年度	目標	毎年度
	指標設定の考え方	補助対象により成果が異なるため、特定の指標を設定することができない。				目標							
	指標で表せない効果	住民活動に必須である、集会所の整備を適切な時期実施していくことで、コミュニティ活動の基盤強化を図っていく。				実績							

## 事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況（今年度の途中経過）		集会所の多くが建築から50年以上経過する施設が多く、老朽化や受益者数の減少など多くの問題を抱えている。本市の財政状況にもよるが、複数集落での集会所の共有化等も視野にいれながら、地域コミュニティ施設の維持のために事業を継続していく必要がある。									
事務事業の評価	自己判定（担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業成果・工夫した点	集会所の改修事業の補助制限期間が10年となっており、その間、設備等に故障が生じた場合、地元負担での修繕又は更新となっていたが、要綱を改正し設備のみでも補助対象とすることにより、地元負担の軽減及び施設の適正な維持管理が図られることとなった。		
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理業務に対応しておらず、見直しが必要である。	3			事業の苦労した点・課題	広報区長会等において、緊急性の原則等の説明を行うことで、各地区からの要望が精査されているように感じているが、事業に対する問い合わせも少なくないことから、問い合わせのあった案件については、状況把握に努め、後年度の費用負担の増加につながらないように対応する必要がある。		
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3						
		有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の効果	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。		
			成果向上の可能性	5 既に十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。	3			事業の効率性	今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。		
			施策への貢献度	5 施策推進に向け、効果を認めることができる。 4 3 2 1 施策推進につながっていない。	3			手段の最適性	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。		
	一次判定（所属長）	妥当性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 3 2 1 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の効率性	活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。		
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	2			市民（受益者）負担の適正	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。		
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3			手段の最適性	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。		
		有効性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 3 2 1 この事業では施策の目的に沿った事業である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由)		
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理業務に対応しておらず、見直しが必要である。	3			市民（受益者）負担の適正	施設の長寿命化を図る観点から事業の継続が必要である。		
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3			手段の最適性	施設と設備に分けて助成することで利用しやすい制度となつた。地域のコミュニティ醸成の拠点施設として活用してもらいたい。		
	評価	効率性	事業の効果	5 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決にならない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	市民（受益者）負担の適正	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。		
			成果向上の可能性	5 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3			コスト効率	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。		
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 3 2 1 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3			手段の最適性	施策推進につながっていない。		
		効率性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 3 2 1 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	市民（受益者）負担の適正	活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。		
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3			市民（受益者）負担の適正	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。		
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	手段の最適性	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。		

施 策 を 踏 ま え た  判 断	二 次 判 定	<input type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	 <p>指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。</p>
		<input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外 部 評 価	答申の内容
------------	------------------	-------

今後の方針性 (ACTION)

の経 最 終 者 判 会 議	事業の方針性	コメント欄
	<input type="checkbox"/> さらに重点化する。 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 <input type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。 <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。 <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	